



挑め、
Challenge

NIPPON

Japan To the world

から世界へ



NIPPON STEEL

日本製鉄株式会社



未来の 自動車を 生み出す

ISSUE:

社会の課題

自動車の安全性や環境性能を向上させ信頼性を高めてきた鉄。進化はさらに加速していきます。

鉄が自動車に多く使われる理由は、コスト・リサイクル性が高いことに加え、プレス性・溶接性・塗装性に優れ、大量生産に適した素材だからです。それに加え、最近では自動車のCO2排出量の軽減と、衝突安全性の向上を実現させる素材が求められ、日本製鉄はハイテンと呼ばれる高張力鋼板の開発を通じ、貢献しています。しかし、自動車の進化（HVやEVの増加等）は速く、それに合わせ鉄の技術もさらなる向上が求められています。

SOLUTION:

日本製鉄の解決方法

新たな自動車部材開発とソリューションの提案。自動車の未来を切り拓きます。

ハイテンの採用が進む中で、次に着目したのは鋼管部材の車体フレームへの適用。素材から特殊な角型断面の鋼管を製造する技術開発に加え、ロボットメーカーとも協業し、変形過程を研究し尽くし、鉄の加工技術も含めたソリューションを提供しました。これにより強度を維持しながら最大50%の軽量化を実現。他素材にも負けない、性能を実現しました。今後はお客様の生産性向上など、将来を見据えた技術開発も行っていきます。





ISSUE:

社会の課題

地震大国と言われる日本。
東日本大震災からの
復旧に求められた鉄の力。

東日本大震災では巨大津波が沿岸部を襲っただけでなく、川をさかのぼり、堤防を越えて川沿いの内陸部にまで被害を及ぼしました。宮城県の石巻港へと続く河川では、宅地と農地が浸水し、地盤が沈下。この大きな教訓を糧に、災害に強い街づくりが求められていました。震災からの復旧の方法の一つとして、取り組まれたのが堤防づくり。その堤防に鉄の力が求められています。



SOLUTION:

日本製鉄の解決方法

日本製鉄が提供する鋼矢板は、
震災復旧工事に貢献。
命を守る役割を担っています。

堤防は数十年から数百年の頻度で発生する津波に耐え抜く構造で、日本製鉄が提供したのが、それに使用される鋼矢板。東北の復興の足取りは確かなものになってきていますが、資材の調達難しさや工事従事者の人手不足は課題になっています。短工期への対応や効率的な建築構造をつくりだすためのソリューションを提供しました。さらに、単位壁面積当たりの鋼材重量が軽く、材料費の削減も実現しています。





世界中の人に “美味しい”を 届ける

ISSUE:

社会の課題

食品の安全は、
容器の品質に左右される。
ブリキの進化が不可欠でした。

日本製鉄は、Dole Packaged Foods（ドール社）に対し、1962年の取引開始から50年以上にわたり、ブリキ（容器用銅板）をシェア100%で供給。農園で栽培したパイナップルを、自社で製缶した缶に充填する事業モデルを支え続けてきました。パイナップルを衛生的に、世界中へ届けるために求められる、錆びにくく、強く、軽く、容器。より多くの食卓にパイナップル缶を届けるために、ブリキの進化が期待されていたのです。

SOLUTION:

日本製鉄の解決方法

容器が進化することで
“食べる喜び”を
世界の食卓に届けることが可能に。

ドール社はパイナップル缶用のブリキを無塗装で使用。パイナップルがブリキに直接接触するため、ブリキに対する要求品質は高く、高耐食性を実現するために技術開発を続けてきています。また、強さと軽さの両立を図るために、形状をコンピュータで解析し、提案を繰り返し、最適なブリキを生み出すことに成功。ドール社と日本製鉄は、単なるサプライヤー・バイヤーの枠を超えた緊密なパートナーシップを形成し、食の安全を守っています。





新興国の 経済発展を 支える

ISSUE:

社会の課題

天然ガスの安定供給の実現。
求められたのは、
安全性と信頼性でした。

タイ湾は海洋ガス資源が豊富で、ガス田から生産される天然ガスを輸送するため、海底にパイプライン網が張り巡らされています。日本製鉄グループは、タイ国営系石油開発会社から、2000 キロ以上に及ぶ海底パイプライン敷設工事を受注。パイプラインは万一破壊事故が発生した場合、大規模な災害と海洋汚染を引き起こす可能性があります。このプロジェクトでは、約 20 年間連続使用することが前提となるため、高い安全性と信頼性が求められました。



SOLUTION:

日本製鉄の解決方法

日本製鉄グループの総合力で
世界最高の鋼管と
溶接の技術を生み出した。

世界最高水準の高い品質と優れた耐久性を誇る、日本製鉄のシームレス鋼管。大きな水圧や激しい潮流や波浪などの荷重に耐える強度と、天然ガスに含まれる腐食性物質による、パイプ腐食割れを防ぐことを実現。それに加え、鋼管同士を繋ぐ際の溶接についても、日鉄エンジニアリングと協働で自動溶接システム「RAIDEN」を開発。これにより世界最速レベルの高効率溶接を実現しました。日本製鉄グループは、資源の安定供給を図り、世界の人々の生活に貢献しています。

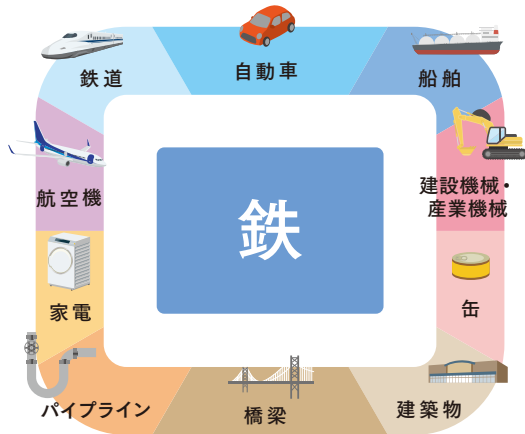


鉄の需要は伸び続け、世界中の様々な産業に貢献

鉄という素材は過去から様々な産業の発展に貢献してきました。しかし、自動車や家電、食品、住宅などの製品とは異なり、あまりに身近すぎて、見過ごされているかもしれません。世界のものづくりは鉄から始まるといっても過言ではありません。

鉄鋼が必要とされる産業

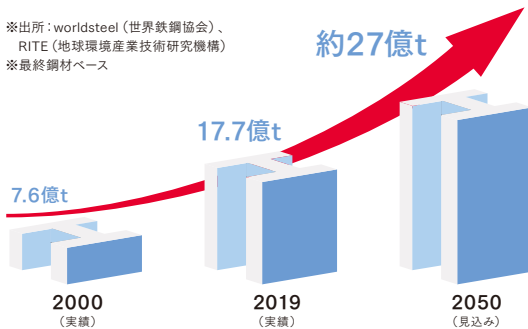
様々な産業のニーズに対して、オーダーメイドで製品を開発し提供。



世界鉄鋼需要量の推移 (単位:億t)

世界における鉄鋼の需要は伸び続け、今後も拡大する見込みです。

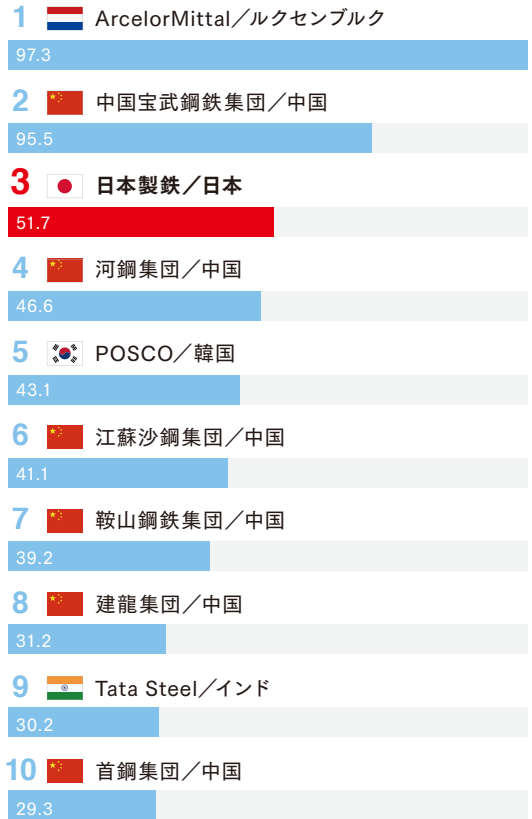
※出所: worldsteel (世界鉄鋼協会)、
RITE (地球環境産業技術研究機構)
※最終鋼材ベース



主要鉄鋼企業／粗鋼上位10社 (単位:百万t)

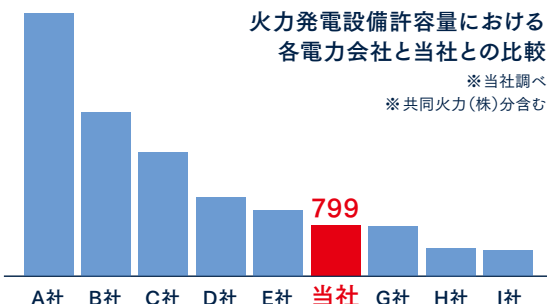
日本製鉄は世界トップクラスの規模です。

※出所: worldsteel (世界鉄鋼協会) (2018年度実績)



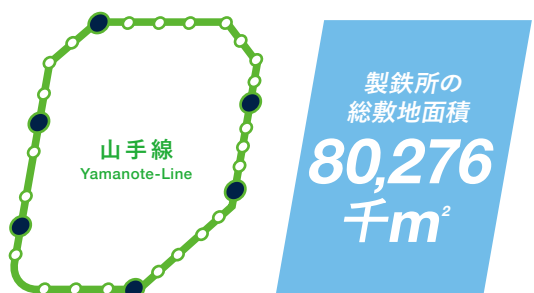
火力発電設備許容量 (単位:万kw)

当社の製鉄所の火力発電設備は電力会社と同等の発電量を供給しています。



製鉄所の総敷地面積

「JR山手線」の内側の面積とほぼ同じです。



グループの総合力を武器に、世界を牽引

日本製鉄は常に変化する時代の中で、世界最高の技術とものづくりの力を追求しています。新興国の台頭、エネルギー・環境問題への対応など、グローバルマーケットの動きにあわせ、常に自身も進化し続けています。

グループの総合力

売上高

5兆9,215億円

売上高が5兆円を超えるのは、国内で約30社。

日本製鉄グループの連結での売上高は5兆9,215億円。製鉄事業で5兆2,573億円、エンジニアリング事業で3,404億円、ケミカル & マテリアル事業で2,157億円、システムソリューション事業で2,732億円という内訳です。(2019年度実績)

グループ
企業

526社

グループ企業が400を超えるのは、国内で約20社。

連結での総従業員数は106,599名です。製鉄、エンジニアリング、ケミカル & マテリアル、システムソリューションの他に、商社、物流、不動産等、幅広い事業を展開。主力の製鉄事業とシナジーが大きいのが特徴です。

世界最高の技術力

技術
先進性

8年連続選出

8年連続で選ばれた鉄鋼企業は日本製鉄のみです。

特許の「数量」、「グローバル性」、「成功率」、「引用における特許の影響力」の4つの基準により選出した、世界でもっとも革新的な100の企業・研究機関に贈る「Derwent Top 100 グローバル・イノベーター」を8年連続で受賞しました。

研究
開発費

2,200億円 (3年間)

研究開発費が700億円/年を超えるのは、国内で約40社。

技術開発体制を競争力の源泉として、開発スピードを加速させるために研究開発費を拡充させています。総勢約800名の強固な連携を図り、基礎基盤研究、応用開発、エンジニアリングまでの一貫した研究開発を行っています。

グローバル戦略

事業投資

6,000億円 (3年間)

国内外戦略分野への事業投資は、3年で6,000億円。

新興国を中心とした海外市場で、重点戦略分野である「自動車」「資源エネルギー」「インフラ」の3分野の高級鋼市場を中心に収益拡大を目指します。優良な案件にタイムリーに投資できる体制を整えています。

海外
生産能力

約4,000万t

海外生産能力は、近年、急激に拡大。

海外生産能力は「約4,000万t」になり、飛躍的に拡大しています。複数の海外拠点は、現在順調に稼働し、収益に貢献しています。今後も海外における生産能力は伸び、グローバル戦略は着実に進んでいきます。

最高峰の技術が生まれる場所

日本製鉄は、鉄づくりに関して、世界のトップと評価される研究開発力、知的財産創出力を持っています。「揺るぎなき総合力世界 No.1の鉄鋼メーカー」を実現するために、「3つ」の中央研究組織を中核として、最高峰の技術力を一層高めていきます。



鉄鋼研究所

社会を変える「商品」を生み出す

従来にない機能の鉄を実現し、人々の暮らしや産業を変革する先進的な商品を開発します。

TOPIC 01 自動車の軽量化・衝突安全

次世代自動車の構造コンセプト「NSafe[®]-AutoConcept」を構築し、各パーツに求められる性能を発揮するための、先進的な素材開発を実現。それに加え、最大限に素材性能を引き出すための部品構造設計やその構造を具現化する加工技術を組み合わせて、提案します。



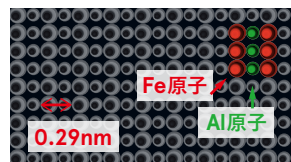
先端技術研究所

原理原則から「新たな価値」を引き出す

鉄の原理原則を極めて、商品開発やプロセス開発を支える技術基盤を構築します。

TOPIC 02 原子レベルで鋼材の微細構造を解析する技術

電子顕微鏡技術やアトムプローブ電界顕微鏡技術の開発により、原子レベルの解析を実現。鋼材の集合組織、粒界偏析などを解析し、成分・組織制御を緻密に行うことにより、ニーズに応じた高機能商品を開発しています。



プロセス研究所

世界最高の「製鉄プロセス」を目指す

鉄を溶かし、成分調整する工程から、サイズ・材質をコントロールする工程に至るまで、鉄づくりのプロセスの革新を図っています。

TOPIC 03 地球温暖化防止のための研究開発「COURSE50」

世界最高水準のエネルギー効率のさらなる向上によるCO2排出量の削減に取り組んでいます。それに加え、CO2の原料としての利用や再生可能エネルギーからの水素製造、海洋生態系のCO2の固定など、中長期的な研究開発にも取り組んでいます。



国内マザーミルの「つくる力」の強化

技術開発並びにコスト・生産性改善の観点として進化を続け、国内外への鋼材の安定供給と海外事業の支援を行なっていきます。鉄鋼業で世界最大規模・世界最高水準の技術開発力を活かし、変革のキードライバーとなる技術開発を推進します。

世界をリードする技術開発の推進

環境変化

- 鉄鋼需給構造の変化
- 社会・産業構造の変化
- 持続可能な社会の実現

資源投入

- 設備投資 ▶ 約17,000億円/3カ年
- 事業投資 ▶ 約6,000億円/3カ年
- 研究開発費 ▶ 約2,200億円/3カ年

5つの重点施策

1

「つくる力」の継続強化

TOPIC 01 「つくる力」の再構築・経済生産へのシフトチェンジ

製鉄事業競争力の強化を図るため、組織の一部統合・再編を行い、自律性・効率的を追求。国内外問わず、収益拡大を目指します。



2

グローバル事業展開拡大

TOPIC 02 日本を発祥とするグローバルな鉄鋼メーカー

スウェーデンの Ovako 社の買収を含む山陽特殊製鋼の子会社化や、ArcelorMittal 社と共同でインドの高炉一貫の鉄鋼メーカーである Essar Steel 社の買収を行いました。



3

素材とソリューションの提供

TOPIC 03 国土強靱化ソリューション

鉄鋼製品の開発・製造で培った技術とノウハウをベースに、最先端で高品質な素材を用いた、防災・減災につながる商品・工法などのソリューションを生み出します。



4

高度IT実装

TOPIC 04 インテリジェントアルゴリズム研究センター

時代の技術革新に先駆け世界最先端の技術を生み出してきた日本製鉄は、「AI」「ビッグデータ」「IoT」などの最先端技術を活用し、革新的な製鉄プロセスの確立を目指します。



5

持続可能な社会への貢献

TOPIC 05 3つのエコ

原材料・資機材の購入、生産、技術開発、製品の輸送・使用・リサイクルに至るすべての段階にわたって、環境負荷低減を目指します。

- **エコプロセス:** 副生ガスのリサイクル率 **100%**、蒸気生産の排熱利用率 **76%** など
- **エコプロダクツ®:** 地球温暖化対策の推進、環境リスクマネジメントの推進など
- **エコソリューション:** 地球規模での CO2 排出量削減など

大きな裁量権を持ち、チーム一丸となり仕事に取り組む

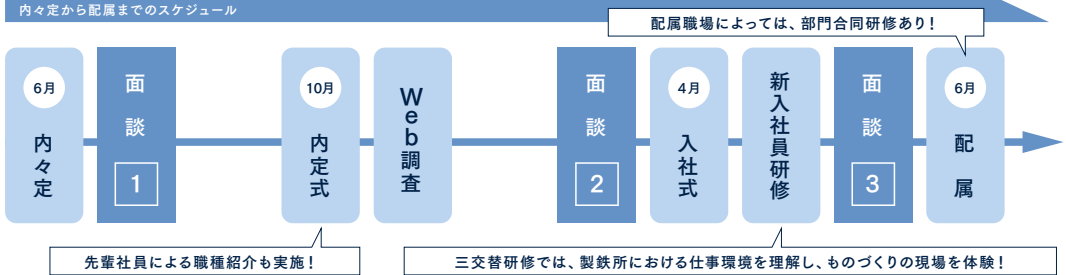
世界のものづくりをリードする日本製鉄には、文系の方も、理系の方も広く活躍できる舞台が広がっています。様々な分野のプロフェッショナルが集まり、一つの目標に向け、チームとして業務に取り組みます。一人一人の裁量が大きく、様々な業務に主体性を持ち携わっていく特徴があります。

技術系

	材料	機械	電機 /電子	情報 システム	化学	物理	土木 /建築	経営工学 /数理	環境 /生物	資源
技術系										
操業技術	●	●	●	●	●	●		●	●	●
品質管理	●	●	●	●	●	●		●	●	●
設備技術		●	●	●			●	●		
エネルギー技術	●	●	●	●	●	●		●	●	●
ITシステム		●	●	●				●		
研究開発	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●配属の流れ

内々定から配属までのスケジュール

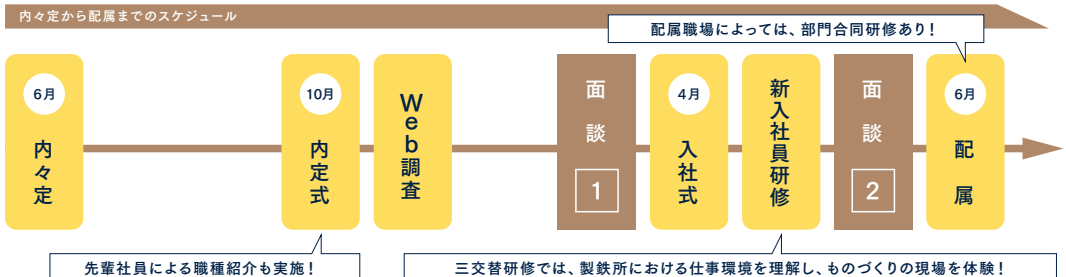


事務系

	法律	経済	経営	文学	国際関係	政治	社会	会計 /簿記	その他 文系	理系
事務系										
国内・海外営業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
グローバル購買	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
工程マネジメント	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
コーポレート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●配属の流れ

内々定から配属までのスケジュール

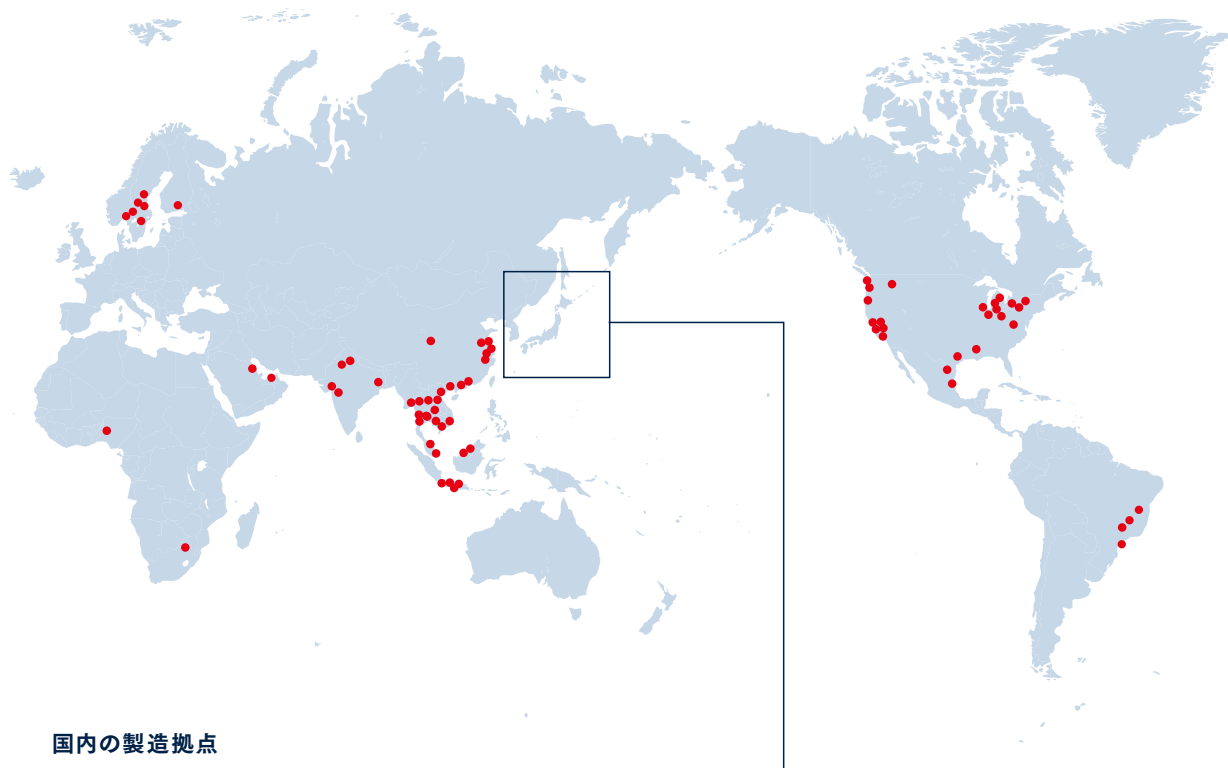


世界中の国・地域に拠点を構え、社員が活躍

世界の様々な場所で、一人一人が強い意志と個性を発揮し、数多くの価値を提供しています。
 様々な経験を通し、グローバル人材へと成長できる機会が、数多く用意されています。

グローバル事業投資金額
 世界19事務所・現地法人・57製造拠点 **6,000億円** / 3年

グローバル製造拠点



国内の製造拠点

製鉄所	地区
室蘭製鉄所	
東日本製鉄所	鹿島地区、君津地区、釜石地区、直江津地区
名古屋製鉄所	
関西製鉄所	和歌山地区、製鋼所地区、尼崎地区
瀬戸内製鉄所	広畑地区、呉地区、阪神地区
九州製鉄所	八幡地区、大分地区

豊富な挑戦の機会を誰もが手にできる

日本製鉄では多様なバックグラウンドを持つ従業員が、世界最高水準の鉄づくりを行うというひとつの目標のもと、共に力を合わせて働いています。男女関係なく活躍できるフィールドが広がっています。

キーワードで紐解く日本製鉄の環境 (2018年度または2019年度実績)

募集・採用
に関して

150名

採用者数

新しい力を募り、
世界に新しい価値を届けていきます。

約400名

海外駐在者数

グローバルでのビジネス拡大を
加速させます。

34%

女性採用比率

男女関係なく活躍できる舞台を用意。
お互いを尊重し、
助け合いながら働けます。

職業能力の開発
に関して

階層別 研修

年次研修(1~3.5年目)、
新任管理職研修、
ビジネスリーダー研修(経営層向け)など
学ぶ機会が豊富にあります。

技術・ スキル講座

「約100講座」あり、「スキル」なら「ロジカルシンキング、
マーケティング、ファシリテーション」など、技術なら
「製造工程別(製鉄、製鋼、薄板、鋼管、厚板、棒線、機械、
電気、設備)、材料学」など希望を基に受講可能です。

国際化 教育

語学講座、留学・短期派遣制度
などを通し、グローバルに活躍できる
経験を積んでいきます。

職場への定着
に関して

16.3日

有給休暇の平均取得日数

プライベートも充実。
長期の休暇をとり
リフレッシュすることも可能です。

96.3%

育休取得後の復職率

育休復職者が
スムーズに職場復帰できるよう、
必要な支援を行っていきます。

18.2年

平均継続勤務年数

安心して働ける環境の中で、
腰を据え働いています。

仕事と生活の調和のとれた働き方

日本製鉄の社員は仕事とプライベートを共に充実させ、イキイキと働いています。会社も常に社員が働きやすい職場環境づくりを目指し、日々、仕組みや制度の向上に取り組んでいます。

日本製鉄のサポート体制

WELFARE SUPPORT
01

テレワーク

健康で効率的かつクリエイティブな働き方の実現に向けて、2019年度より導入。有限である時間を最大限有効に活用するとともに、社員個々人の能力を最大限発揮できる体制をスタートさせました。



WELFARE SUPPORT
02

キャリアリターン

ライフステージの変化により、一度、退職された方も会社が認めた場合、退職後5年以内で再入社を希望する場合に利用できる制度。身につけた力を再び発揮できる機会を提供します。



WELFARE SUPPORT
03

保育所

国内6カ所の製鉄所（君津、八幡、大分、名古屋、広畑、鹿島（新設予定））に保育所を設置しています。今後、他拠点にも展開予定です。ご家庭を持った社員が安心して仕事に集中できるよう支援します。



Real Voice 01

ライフステージの変化があっても確かなキャリアを築けます。

岩切 あやの 2013年入社 名古屋製鉄所 品質管理

日本製鉄の魅力は、ライフステージの変化があっても、キャリアを築いていけること。現在、二人の子どもの育児をしながら働いていますが、家庭と仕事の両立ができています。急に子供が熱を出すこともあります。当日の朝に上司に欠勤の連絡をしても「子ども優先で」と優しい言葉をかけてくれてとても心強いです。また、時短勤務やテレワーク制度を活用しながら、子どもの体調や成長を優先しフレキシブルに働けるのが嬉しいですね。子どもが大きくなったら、海外出張なども挑戦してみたいです！

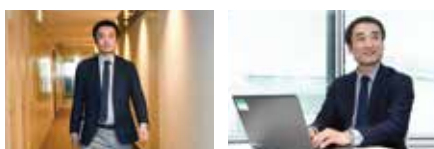


Real Voice 02

チームで業務に取り組みプライベートの時間を生み出します。

飯島 健吾 2005年入社 九州支店 建材室（育児休暇取得時）

子供の育児を行うために、1ヵ月、育児休暇を取得しました。育児休暇を取得できた理由は、自分の業務をオープン化し、周りの社員と助け合いながら働ける体制を構築していたからです。職場のチーム内にて3ヵ月間のスケジュールを作成し、業務の共有化、事前の進め方の共有をするようにしていました。現在もプライベートを充実させるために、働き方を常に改善。週末に家族と公園や買い物に行くのが何よりの楽しみです。プライベートの充実が仕事のモチベーションに繋がっています。



Interview:

描いたキャリアを実現することで、 技術をビジネスへつなげ、 未来のビジネスをつくる。

大学時代からモノづくりをビジネスへ繋げ、社会に貢献していくことに興味を持っていました。入社時から描いていたキャリアプランは海外駐在員。そのために入社後は操業エンジニアとして、製鉄の技術開発や改善に取り組み、6年目から課長として300名規模の工場の予算管理、中期経営計画の策定など工場経営を経験。工場長になるという選択もありましたが、私は一度外に出て、視点を増やし、視野を広げたいと技術営業への異動を希望。現在は、ノルウェーの大手石油会社を担当しています。お客様の要望を直接ひきだし、技術的な戦略を立案。どの領域に投資するか、どんな手法で効率化していくかなど関連部署を巻き込んで検討し実行していきます。未来に繋がる仕事を行うために、未来を見据えキャリアを切り開きます。

Profile 松本卓也 2010年入社 (技術系就職)

和歌山製鉄所で石油や天然ガスの採掘に使われるシームレス鋼管の工場で操業エンジニアを担当。2016年10月より課長として工場の原価管理、中期計画の策定などに携わる。2019年4月より技術営業として大手石油会社を担当。

Influence:

社会 価値

**ビジネスと環境貢献。
2つの両立が求められる。**

私が担当する油井管は油田・ガス田の掘削用として使用されます。エネルギーの安定供給には欠かせませんが、環境汚染などにも配慮する必要があります。当社で長年培ってきたノウハウを駆使し、ビジネスと環境貢献が実現するソリューションを生み出したいです。

Environment:

職場 環境

**私自身、産休を取得。
社員の人生を第一に
考えてくれます。**

私は第二子の出産に合わせて配偶者出産休暇を取得。妻も働いていますので、定時に帰りの子どものお迎えなど家事や子育てを協力して行っています。有休も取得しやすく、一週間ほど取得して旅行に行ってリフレッシュするなどメリハリつけて働いています。

Work:

仕事

**予期せぬ事態は必ず起こる。
知恵を絞り、
チームで解決する。**

新製品の開発を進める中で、意図しない反りがでるという問題が起きました。私はリーダーとして、研究所や現場、製造装置メーカーなど、様々な関係者と一緒に、アイデアをだしあい解決方法を見つけ出し、製品化することに成功。この工法が現在、工場の標準になっています。

Career:

キャリア

**当社の事業を
牽引する要として
世界各地で活躍したい。**

当社はヒューストン、シンガポール、デュッセルドルフ、ドバイなどに海外事業所を展開しています。将来は海外駐在員として、お客様のご要望を直接肌で感じ、新しい価値を創造するなど、当社の事業の方向性を定め、全体をリードしていく役割を担っていきたいです。



Interview:

世界を支えているという誇りを胸に アメリカで戦っていく。

入社当初より海外での挑戦を視野に入れていました。2018年にその念願が叶い、アメリカで働いています。アメリカで挑戦する中で感じるのが、日本製鉄の世界における影響力の大きさ。当社は世界中の鉄鋼会社とジョイントベンチャーを設立していますが、働く中で、地域の雇用や産業を支えていることを感じています。例えば、ワシントンDCで毎年開催される政府主催の投資サミット。サミットの中で、多くの州の関係者から「日本製鉄に期待している」「もっと協力し合えることはないか？」など数多くの声をいただきました。私は財務面から、北米エリアの業績最大化を目指していますが、世界においての日本製鉄の存在感を強くする一翼を担うことはもちろん、自分の努力が地域や国の経済発展につながっていくことを実感しました。これからも、数多くの人々に貢献できるよう、挑戦を続けたいですね。

Profile 麩押 知美 2012年入社 (事務系就職)

入社後は、名古屋製鉄所や本社で財務業務を担当。2018年より Nippon Steel North America, Inc. (NSNA) の Finance チームに所属し、在北米事業会社の業績管理・業務支援や NSNA グループの会計事務対応などに携わっている。

Influence:

社会価値

社会への影響を感じながら、常に挑戦し続けます。

当社の製鉄所や事業会社が立地する地域は、お客様はもちろん、行政・関係会社・地域に住まいの方々などと密接に関わっており、地域経済に与える影響も非常に大きいです。その分、安定した鉄の供給やビジネスの創出を行うことで、数多くの方々々に価値を提供し、豊かな社会づくりに貢献することが可能です。

Environment:

職場環境

性別に関係なく、確かなキャリアを築けています。

キャリアに関して、常に相談する機会があります。周りの女性社員も、多くが結婚・出産・育児を経験していますが、配偶者の転勤に伴う自身の転勤や育児・産休の取得、製鉄所内保育所など、様々な制度や支援を活用し、自身が希望するキャリアを実現させています。

Work:

仕事

数百億円の調達方針の変更。多くの方を牽引し、成功へと導けた。

今まで、連結子会社が各々で行っていた資金の調達業務を、本社が一括で行う方法に変更するプロジェクトに参加しました。連結子会社への懸念・要望事項のヒアリングといったグループ内業務や、金融機関への説明などの社外向け業務などを幅広く担当。課題を一つひとつ解決し、成功へと導けた際は嬉しかったですね。

Career:

キャリア

新しい環境での挑戦が、自分の成長へとつながります。

製鉄所・本社・海外事務所・海外事業会社と、様々な環境で業務を経験。関わる人の職種・人種・職歴・文化が異なることで、常に新しい発見があり、自分自身を成長させる機会になっていることを実感しました。それもあり、今後は財務とは違った職種への挑戦も視野に入れ、スキルアップを図っていきたくと考えています。



Interview:

変化が激しい自動車業界。 時代の先を見据え、 一步先の提案を行っていきます。

ハイブリッドカー、電気自動車、水素自動車などの次世代自動車の登場。そして、CASE に代表される自動車の IT 化など、自動車業界を取り巻く環境は、日々、変化しています。自動車メーカーを担当する営業として、常に変化を先取りし、次に何が求められるかを考えています。例えば、事業ブランドの立ち上げ。今までは棒線という「鋼材」を作り出すことに集中してきましたが、その競争力のみならず、鋼材加工（熱処理・伸線など）を専業としている当社グループ会社数十社の「加工技術」も含めた「鋼材」×「工法」の組み合わせで、競争力を追求。お客様の製品価値向上や生産性向上を実現させます。実はこういったブランドづくりは世界中の鉄鋼メーカーの中でも先進的な取り組み。新しい価値を生み出す挑戦でした。時代の変化をチャンスと捉え、自分たちもその機会を利用し、成長することにより未来における自動車の可能性を広げていきます。

Profile 黒田 翔平 2012年入社（事務系就職）

八幡製鉄所で棒鋼・線材の工程管理、進捗管理を担当。製鉄所の司令塔として出荷（売上）最大化を実現。その後、本社で自動車メーカー・自動車部品メーカーなどに対して棒鋼・線材の営業を行なっている。



Influence:

社会価値

誇り・使命・責任感を持ち
鋼材の安定供給を守る。

2018年に旺盛な自動車・建機生産を背景に全国で特殊鋼の需給が逼迫した時期がありました。お客様、商社、製鉄所などへのヒアリングや、全国の営業を牽引し、約1年間、鋼材の供給に奮闘しました。鋼材の供給が止まれば、お客様のビジネスが止まっています。それほどに当社の供給責任は重大であり、世の中に与える影響も大きいものであることを実感しました。

Work:

仕事

年齢や社歴は関係ない。
大きな裁量権を持ち、
決断していく。

当社の魅力に若手であっても、大きな裁量権を持ち働ける点があります。鋼材をつくるプロセスには数多くの人が関わってきます。お客様の期待を超えるというゴールを共有し、各分野のエキスパートを束ね、時には意見をぶつけ合いながら働くことで、成長している環境が広がっています。



Environment:

職場環境

テレワークなどを
活用することで効率的な
働き方を実現できています。

シェアオフィスや在宅勤務も可能になった分、場所に縛られない自由な働き方を実現できています。プライベートの時間も増え、メリハリある働き方が可能になりました。育児への参加など家族と過ごす時間も増えましたし、スポーツジムに通うなど、気持ちも身体もしっかりとリフレッシュできています。

Career:

キャリア

常に将来の姿を描き、
自らキャリアを築いていきます。

人事、総務、原料・機材調達、財務、営業、工程管理、物流、企画、国内外の事業会社管理など、様々な業務への挑戦のチャンスがあり、成長の機会は豊富にあります。大切なことは自分がどうなりたか、常に自分の将来像をイメージしながら、キャリアを築いていきます。

インターンシップ情報

インターンシップの日程やプログラム内容の詳細がご覧になれます
<https://www.nipponsteel.com/internship/>



採用情報

会社情報や仕事情報、社員のインタビューなどの詳細がご覧になれます
<https://www.nipponsteel.com/recruit/>



NIPPON STEEL | **日本製鉄株式会社**

〒100-8071 東京都千代田区丸の内2-6-1

※ 当冊子の掲載内容は2020年時点のものです